

欧州よりみた横浜

岩本正夫

① はじめに

さる8月11日から9月13日まで33日間にわたり、議会より派遣されてドイツ、ハンブルグにおいて開催された神奈川県、横浜市見本市に出席するとともにハンブルグ市当局、商工会議所、総領事館に対する挨拶等の用務を中心として欧州10カ国を視察した。

視察した都市はストックホルム〈スウェーデン〉、オスロー〈ノルウェー〉、コペンハーゲン、〈デンマーク〉、ハンブルグ、ベルリン、フランクフルト・アムメイン、ボン〈西ドイツ〉、アムステルダム〈オランダ〉、ロンドン〈イギリス〉、パリ〈フランス〉、ウィーン〈オーストリア〉、ローマ〈イタリア〉の12都市である。なお西ベルリンから東ベルリンにも入り視察した。

② 欧州諸都市に共通の特徴

各都市全般を通じて考えられたことは、程度の差はあつても、欧州の各都市は、その中世期末からの近代都市形成への長い歴史を背景として、また住民が自から備えた社会道徳を基礎として、都市としての形態をととのえているといえる点である。

もちろん、都市への人口集中や自動車の増加により、都市交通の悪化をおこしていることは本市と同様であるが、東京都や本市ほどの交通マヒはみられない。

都市としての形態を備えている理由として列挙してみれば、都市内部及び周辺部における、市民の憩いの場所として、公園、緑地帯を十分確保していること、街路の幅員が広くことに歩道の幅を十分とってあること、都市外部への連絡道路を完備していること、市内に下水道、共同孔が敷設されているので電柱のないこと、街路が清潔であり、また都市の美化がゆきとどいていること、交通道徳〈人命尊重〉が守られ、動物愛護の精神が徹底していること、文化施設〈博物館、美術館、オペラ〉が多いことなどである。

端的にいえば、欧州の地方自治体の施設の重点は、あくまで市民福祉であり、市民も共同体の一員として、一人一人の生活環境を良くするために協力しているといえよう。ただしハンブルグのような警視庁までもつ自由市。ストックホルムのように州と対等な特別市などをはじめ、総じて都市の権限が強く、わが国の都市のように3割自治ということはない。また一部にロンドンの地下鉄内、ローマの下町の道路、ハンブルグのReeperbahn〈歓楽街〉など、清潔でない所や、ローマの旧市街にみられるような狭い街路の所もあつた。さらにその国の政治形態によつても種々の相違があるが、これは、当然のことであろう。

④ 欧州一の清潔な街<ストックホルム>

<1>都市の概要

歴訪したうちでもっとも清潔に感じた国は、北欧とくにスウェーデン、ノルウェーでありもっともすばらしい都市はと問われれば、スウェーデンの首都、ストックホルムをあげる。

人口80万のこの街は、北欧のベニスともよばれているそうだが、欧州一の健康都市の表現が、そのままあてはまる近代都市である。この街の歴史は、1252年 Birger Jarl が城壁で囲み築造した町に始まり、1523年 gustav Vasa により完成された。現在、社会民主党の政権のこの国で、ストックホルムは教育、社会保障ともに完璧な勤労者の天国の街であるといわれている。そこで本市と欧州各都市と比較する場合、ストックホルムの状況を記載すると同時に他の都市についてもとくに参考となるものを追記してみよう。

この街は、17世紀のバロック風建物と近代的ビルが美しい調和を見せ、また街路、市内ハイウェイ、郊外のニュータウンに通ずる、幅員80mの放射状に配置された道路が、スムーズに連絡している。道路にはたばこのすいがら、紙くずなどはまったくなく、素足で歩きたいようであり、また歩行中に喫煙している市民もみられない。広場、湖岸、ショッピングセンター <たとえば Hötorget area> には、花鉢とともに噴水などで飾り、市民の休息のためベンチを置く。そしてこれらはすべて市当局の管理下にある。また市民はこれに協力して商店や住宅の入口、ベランダ、窓の下を花で飾る。そして市内には多数の大小公園、緑地帯があり、これがうっそうたる大木や花で色どられ、日光を楽しむ市民の憩いの場所となっている。都市面積の4分の1以上に緑地帯をおくことが法律で定まっているとかの話である。

なおストックホルム市の周囲は広大なグリーンベルトで囲まれ、その外部には、計画的に数箇のニュータウンが造成されている。これらニュータウンを含めて、この都市の全人口は100万を越える。そしてスウェーデンでは造船、鉄鋼、自動車産業都市を別につくっており、ストックホルムには工場を禁止し、商業、経済の中心となっている。したがって公害はなく、湖はあくまで青く、空はあくまで澄みわたっており、健康都市としての基盤をがっちり支えている。

街路の清掃は朝時5頃行なわれ、街路の下にはヒートパイプが通り、冬でも交通に差し支えないようになっている。<新潟市でも、一部分天然ガスで始めたと聞いている> `さらに市でセントラルヒーティングを行って、暖房用のスチーム及び熱湯を無料配給している。公園、緑地帯ではよく肥えた雀、その他野生の鳥類やりすなどが寄ってくるし、動物に餌を与えて、これをいつくしむ観念が徹底している。なお街路のあちこちに円筒形の広告塔があって、これ以外の場所の街路には広告はなく、この街の美観に一役かっている。<これはオスロー、ハンブルグについても同じ>

市電は連結車が多く、大体2輛連結で入口は1か所、他は出口になっており、入口は広く内部に柵があり、ここを通過するときに乗客は切符を買う。切符は1区間80オーレ<56円>で他都市の場合も大体60円程度が多かった。またこの街では、市電とバスの停留場が同一箇所であることも面白い。

<2> ニュータウン

ニュータウンはストックホルムの中心より15キロ前後、市の西北に Hassebystrand Vallinbg, Angby 東南に Västertorp Hagsätra Farsta Skarrpnäckが造成された。

近郊都市はまず綿密な都市計画が公園、緑地帯、交通、学校、駐車場、ショッピングセンター、住宅、医療施設、教会、警察などの配置を充分検討して行われ、とくに市民のレクリエーションの場であるキャンプ場、水泳場なども重視されている。さらに建築物の規格<階数、色彩>などまで都市の美観のため監督するようになっている。この近郊都市には、前述したように幅員80mの道路がストックホルムの中心から連絡、ニュータウン内部は80メートル道路が縦横に走っており、また首都中心Kungs gatan より出る地下鉄が市外に出ると市街電車となり、ニュータウンの中心に乗入れている。

私どもはニューウンの一つである Farsta <ファルスタ>を訪問したが、この街は人口3万7千で、ストックホルムと同様無料で熱配給を行い、この熱源として原子力を使用している。街の中心のすばらしく大きな駐車場に続いて絵のように美しくかつ清潔な商店街が見られ、ショッピングセンターを囲んで緑に包まれた住宅<高層アパート>、学校、医療施設、老人ホームなどが配置され、商店街とは車道と立体交叉した立派な歩道で連絡している。視察した小学校施設、アパートなども全くうらやましいかぎりであるし、中心から1キロの所に、湖を背景としたファルスタのキャンプ場も設置されているし、まったく文字通りの福祉都市ユートピアと感ぜられた。

<3> 住宅問題

スエーデンの住宅は地方自治体、住宅協同組合、個人により建築されるが、最も多いのが地方自治体によるものであり、国は建築する者に対して85%から100%におよぶ住宅資金の貸付けを行う。ただし、この貸付けをうけるためには種々基準が設けられている。たとえば、窓が1つの部屋は1日に5時間以上、また両側に窓のある部屋は1日に4時間以上、陽が当らなければ許可しないとか、あるいは1部屋だけの住宅建築は認めないとか、高層アパートの場合、子ども達の遊び場を親が各階より見守ることのできるよう設計するとかである。また、1部屋に2人以上の同居は、過密とみなされている。この過密住居は全国で1割で、いかにすれば全世帯の9割は、1人1部屋以上の住宅を保有することになっている。

スエーデンにおいても重工業の発展、都市を中心とした商工業の急激な発展のため、人口の都市集中が激しく、毎年3万人が農村から都市に移動しており、これに対応して、

1940年以降、政府は積極的な住宅政策をとり、また地方自治体は、住民に設備のととのった住宅を与える計画を政府から委任されている。また、自治体は法律にもとずき、住宅建設目的のために適当な土地を徴用できる。さらに課税についても、適当に行なう権限があり、特殊の人に住宅補助金も出せるしくみになっている。

ストックホルムの新住宅希望者は1年に約10万といわれ、この2分の1以上が、大きな家への転居を希望している。したがって過密住宅解消、近代住宅建築のため、ここでは古い時代の建築物の取壊しが行われている<クララ教会附近>。住宅は高層化されつつあって、私達のファルスタでみた住宅は、十数階の高層アパート群であり、採光のため十字型また平行型などいろいろの形をとり、色彩も周囲とマッチするよう考えられる。アパートはエレベーターを備え<法律で規準が定まっている>、また外には広い子供の遊び場があった。訪問した高層アパート内の夫婦、幼児2名、4人家族の勤労者の住宅は応接間、居間兼寝室、子供部屋、台所、浴槽、トイレット、物置、更衣室、さらに冷蔵庫、ガスレンジまで備わった豪華なものであり、暖房費、燃料費、電力費まで含んだ家賃1月、25,000円で、なおこの家庭の主人は、月約150,000円の収入を得ていた。なおこのアパートの中に老人ホームに収容されないで、1人で老令年金をうけて生活している老人もおり、その部屋を訪問したが居室兼寝室、台所<ガスレンジ、食糧貯蔵庫>、トイレにどを備えている。自治体としては土地の徴用ができるため、住宅建設がしやすい。私が訪問したストックホルムから6キロのEnskedeの個人住宅も市有地を60年契約で借地しており、敷地200坪、建坪30坪の居心地よい住居であった。要するにこの国では、都市における充実した家庭生活のための住宅建設が推進され、我国、本市の住宅建設の考え方とはだいぶへだたりがある。

<4> 老人ホーム

老人ホームについては、上述したようにこの国では老人の孤独感をなくすため、独立した老人施設より希望者を一般世帯のアパートのなかに収容している。これは他の国々に比較してもっとも進歩した施策であり、隣接する若い夫婦の世帯こどもと交際することにより、若い人々も老人と親しむようになる。またストックホルムでは全女性の2分の1は働いており、夫婦共稼ぎが非常に多いため、隣室に老人がいることはこどものために、若夫婦たちにも望ましいわけだ。さらに私共はファルスタの独立した老人共同住宅を訪れたが、ここでも老人たちは居間兼寝室、台所、トイレ、浴槽を有した1人用の居室に住まっていた。この共同住宅居住者は、国より住宅手当を支給されている。

ストックホルム市民はキリスト教徒でも、約3,000人の旧教徒をのぞきほとんど新教徒である。宗教心は比較的うすいが社会道徳はあつい。その反面、社会保障の発達により、老人を大切にする観念がまたうすらいでいる。

デンマークのコペンハーゲンにおいては、1873年に設立された市内の中心にある老人ホ

ーム Degamlesby 訪れ、Minna Torup 女史の案内で見学したが、ここは1,800人の老人を収容、コペンハーゲン自治市立である。正門本館より広い並木道で、教会に向かって中央道路がとってあり、この道路に直角に5棟の老人ホームと病院、リハビリテーションの建物、看護婦宿舎が並んでおり、建物間には充分スペースがとられて、老人達の憩いの場となっている。各建物は4～5階で設立年代が古く、古い建物を改築しているため現在リハビリテーション施設、看護婦宿舎、老人ホームの一部は新築されている。

老人の室は1人室、2人室にわかれていて、本市の養老院のように大部屋がなく、私たちの訪れた82才の老婦 Edisu Erhal さんの個室も、居室兼寝室、簡易台所、トイレ、浴槽、戸棚、家具などの附属したもので、建物にはエレベーターがあり、完備した食堂、娯楽室、調理場などが設備されていた。病院は医師15名、別にインターン10名が診察に当っており、回復期の老人はリハビリテーション施設を通じて老人ホームに復帰させる。老人の孤独感への対策として作業場を作り、その製品を本館の一隅で一般に販売している。また老人のレクリエーションの場所として、わずか300mの所にコペンハーゲン最大の、Faelled 公園を利用できるように、すでに91年前に位置づけたことなど、本市としても参考になろう。

よく北欧の諸国がその進歩した社会保障のため、老人の自殺が非常に多いという向きがあるが、昭和38年の厚生白書によると人口10万に対する65才以上自殺数は男の場合、日本は70.9で世界第2位、スウェーデンは49.2で第7位、女の場合、日本は53.1で世界第1位、スウェーデンが12.8で第8位となっていて、社会保障の推進が老人の自殺を招く原因とはなっていない点は銘記すべきである。

<5> 医療施設

ストックホルムの南、Södermalm の丘の上には周囲を広大な緑地帯に包まれた、スウェーデンを代表し、欧州で最大といわれる公立南病院がある。正面玄関を入ると広場になり左側に案内所が設置してある。この広場は、横浜駅東口構内広場の2倍はあると思われる大きなものであり、この広場より17科にわかれた1階の各クリニックに続いている。2階以上から病室になり、建物は12階建、5棟、病床、1,700床、医師250名、看護婦1,500名<一部補助看護婦>、わが国のように、患者4人に看護婦1人、という割合とはだいぶ違う。この南病院は入院が専門であり、外来は予約制で午前中わずかに診るのみである。

調理場は12階にあり、食事の調理の臭いが、病室に流れないように配慮されている。食事は3食のほか、間にコーヒー、サンドウィッチも出すそうである。病室は個室がほとんどであり、家具、冷蔵庫、トイレが備えられたデラックスなものであり、さらに音楽室、放送室、託児所、郵便局まで病院内に設備してある。またストックホルム全般の病院配置では、南病院の下には4大病院と、14の小さい病院が存在するそうだ。

肝心なことは入院患者は3クローネ<210円>払うだけで、他は全額国保で負担してい

ることである。この国の医療保険制度は国民健保一本で統一されており、保険料は課税収入の2%以下と法律で定められ、国庫補助は医療費の2分の1である。医療保障の完璧なスウェーデンの南病院をみたとき、わが国の現在のように9種の健保に分かれ、互に横の連絡がなく、バラバラの給付内容、しかも国の補助金が少くて、市町村の犠牲で赤字を出しながら辛うじて運営している国保<横浜市も同ようであるが>を思いうかべた。充分な国庫負担による医療保障の確立、健康保険の一本化への統合の実現を痛感する。それによってのみスウェーデンのごとく、完全な医療を、平等に国民に与えることができる。

<6> 最近の問題

スウェーデンでは家族構成が平均1世帯2名であり、最近、求人難が目立ってきたことはわが国と同様である。したがってストックホルムでは、夫婦共稼ぎする家庭が先述のように多いわけである。また共稼ぎの原因として、税が高いことも原因となっている。主婦の勤務先は、この街の事務所、デパート、商店などであるので、朝夕のラッシュアワーにはニュータウンとストックホルム間の道路が、彼らの自家用車で相当混雑する。しかしながら道路の幅員が広いため、一時的な現象ですむし、その混雑の程度も常時、横浜市内外でみられるほどでない。

④ その他の都市について

<1> ハンブルグの大市場

ハンブルグの中央市場は大市場というにふさわしいぼう大なものであり、1962年、この自由市に果実野菜の新しい大市場として新築され、さらに1963年花の大市場ができ上った。大市場はハンブルグ市内Amsinick通りとエルベ河の間の250,000平方メートルの敷地内にあり、大市場の面積は40,000平方メートルであり、エルベ河に面して長い埠頭を備え、これより3つのトンネルをもって大市場との連絡をとる。市場の東側には8本の貨車引込線を作り、大市場には東、西より各々2本の地下室への生産品の搬入道<貨物自動車道路>を設備してあり、大市場の両側に90,000平方メートルの駐車場をもち、3,000台の車を収容しうる。

なお花の大市場は、総面積15,500平方メートル、800台の駐車場をもっている。この巨大な市場は建設費90億円であるが、ハンブルグのみならず、この地方の台所を同時にあずかっているそうである。

さらに特筆すべきことは、この大市場全部にわたり換気および暖房装置が完備しており最低+2°C以上に保たれている。また競売場としては大市場の西に2,000平方メートルの建物をおき、階段教室のような室内に200の業者座席を設け、競売時計を正面において、座席よりボタンを押すことにより競売に参加できるようになっている。ここの競売所には4,000平方メートルの野菜および果実の貯蔵倉庫が附属しており、温度調節が可能である。中央市場の地下室には大きなバナナの室<むろ>があり、これと関連して、ハンブ

ルグ港の埠頭には、バナナ倉庫をおき、接岸した船からベルトコンベアーシステムで、直接倉庫に入れることができる。

ひるがえって本市の中央市場と比較すると、この数年の改築によって前時代的な建物が改善せられたことは事実であるが、食品衛生上、環境衛生上、能率的にもだいぶへだたりがある。規模の大小は別としてさらに改善する必要がある。出田町埠頭のバナナ上屋も着工されるが、ハンブルグ港、大市場の設備を充分参考にしてもらいたい。

＜2＞ ロンドンのニュータウン・スモッグ対策・緑地帯

ロンドン近郊には現在、6衛星都市が造成されている。この都市は人口3～4万、ロンドンよりおよそ20マイルの所につくられている＜全イングランドで12都市＞。教会、学校厚生施設、住宅、工場敷地を設け、若い夫婦たちを職場転換させて、ロンドンより移動させている。また若い夫婦が多いので学童は少いが、将来のために学校も計画にしたがって建築されている。これは政府、ロンドン市共同で行っている。大ロンドン人口1,000万に達するといわれ、朝夕のラッシュアワーの交通混雑激しく、都心への車の乗入れ禁止を考慮しており、また市内への外部からの転入制限も行っている。

わが国のニュータウン造りも政府が好んで行なうところの、「こうあるべきだ」という姿の発表だけに終らず、国の十分な補助の裏付けとともに、社会増の急激な地方の自治体に規制の権限をもたせ、かつ造成された新興都市の住民は、その街に生活の基盤をもつようにさせなければならない。現在のままで放置すれば、私たちの横浜市の都市機能も全くマヒしてしまうであろう。

1962年、12月、ロンドンを襲ったスモッグ＜死者340名＞はまだ耳新しい話であるが、当時直接経験した人の話によると、視界2メートルで、自動車の前に人が歩いて車の誘導を行なったそうである。期間は1週間で、原因は各家庭の石炭からの煤煙、自動車の排気ガスだそうである。対策としては、昨年より Smog Controll Act を発令して、熱源である石炭を無煙炭、油に転換させるため、政府、自治体で助成金を出して、設備改善にのりだし市の中心部より周辺に向って改良地区を拡大している。

このほか大都会、ロンドン市内にもハイドパーク、ケンシントンガーデンズ、リージェンツパーク、バッテリーパークなどをはじめ大小の緑地帯、郊外にはハンプトン・パレスに附属したパーク、広大なリッチモンドパーク、ブッシイパーク、ウインザーパークなど市民の憩いの場所にこと欠かない。パリーの凱旋門から17,8分の距離に存在する100万坪以上あるというブローニュの森などうらやましいかぎりである。

⑤ む す び

いろいろと欧洲の各都市の特徴を記載したが、この長所をただちに本市に生かすことのできないものが多い。国の政治形態や法律が違うこと、自治体の権限がわが国より強いこと、人口、国土の面積、地勢的な違いがあることなどのためである。しかしながら当面す

る本市の問題点をとらえて、今後の横浜の進むべき道を私なりに考えてみた。

まず市民白書にも指摘している重要な課題である近郊地帯対策について、本市の場合は理想的な近郊都市形成とは逆に、郊外に向って無秩序にぼう張し、巨大化しつつあるわけである。このまま放置すれば都市機能は完全にマヒしてしまう。これを防ぐためには郊外の無指定地域にどうしても緑地帯の指定を行わなければならない。もちろん、それには相当の困難がともなうが大横浜の将来のために克服しなければならない。そしてその背後に衛星都市形成を検討していくようにしたい。なお、現在行なわれている郊外の無計画な住宅建設などは、市の行政<建築、水道>などの枠の中でできるだけ規制しよう。また市街地の再開発、周辺の問題地域の改善のため、区画整理も平行させなければならない。

街の美化については、オリンピック期間中花いっぱい運動を行ないすばらしかったし、あちこちの市有地にもだいたい花が植えられて美しくなった。まだまだ市内には、大小公有地が多数あると思うが、緑地、公園の少ない本市として、これを確保し、地域の協力を得て、緑化、また花で飾りさらに銀行、商社、デパート、一般商店などに協力を求めよう。このような運動を通じて市民の自然を愛する感覚がたかまり、またコミュニティの一員としての自覚が助長されるだろう。

一級国道1号線も交通量の増加にともない車道が拡張されて、歩道は傷跡のようになってしまった。どうもわが国では人より車優先の考え方が強いようだが、今後、市街地再開発、近郊地帯都市計画の際、歩道はできるかぎり広くとりたい。

屋外広告物については本市では20カ所のポスターコーナーを設けるそうだが、広告塔はどうだろう。作りようにより、街の美化にもなるし、業者に委託して道路使用料をとってもよいと考える。同時に、違反広告物が多いが、これも充分取締らなければならない。

欧州各都市では市役所がその街の中心となり、ここに相当の広場をもち<オスロー、コペンハーゲンなど>緑化し、市民の憩いの場所となっている。本市の場合、市役所前の広場がせまいので提案するが、横浜公園の市役所側の外柵をとり、中の体育館をとりこわし市役所前の広場と一帯にして、体育館跡に噴水、花壇、ベンチなどを設備したらどうであろう。面目が一新すると考えるが。

欧州各国、各都市をみて、わが国がもっとも遅れているのは住宅政策である。ことに他都市と比較して、本市の住宅対策はとくにお粗末である。もちろん、国の補助率の低いこと、用地取得難、本市の急激なぼう張による行政需要の増加のためしわよせされていることも事実であろう。いずれにしても、もろもろの隘路をふみこえて、近郊地帯都市計画の一貫としての住宅建設を行っていかなければならない。老人施設にしても、医療施設にしても、公害対策にしても、すべて国の政策の一環であり、本市のみで解決できる問題ではない。しかしその中で、自治体として市民の健康、福祉の増進につとめなければならないし、一方自治権の拡大についてもますます努力しなければならない。 <横浜市議会議員>